

地域おこし協力隊

ねまがり新聞

2026年 春



2025年の1年間を振り返ります。どのような活動をしたのか、どのような作品を制作したか、写真とともにご覧ください。

地域おこし協力隊ミッションと抱負

伝統工芸津軽竹籠の技術・文化継承による地域振興

弘前市岩木地区に伝わる青森県伝統工芸「津軽竹籠」の技術・文化を継承し、その魅力を青森県だけでなく、全国、世界に発信し、地域振興に資することが私たちのミッションです。隊員それぞれに今年度の抱負を聞きました。



第3期隊員
伊谷翼
いたにつばさ
41歳

引きつづき個人として技術習得しながら、津軽竹かごを未来に残すためにいかに津軽竹かごを収益化していくかに取り組んでいきます。同時に地域の人たちが自らの力で文化を楽しみながら繋いでいって頂く形や流れを作りたいです。そのためにワークショップや教室などで直に触れる機会を作りながら、先生の手作業を動画で残す、愛宕の竹細工文化を冊子などの文字で残す活動もしていきます。そして3年目を迎える令和8年度は協力隊最後の年になるので、愛する弘前市に定住するための家探し職探しなども進めてまいります。今まで以上に岩木地区や弘前市の皆様にはお世話になるとは思いますが、温かい目でアドバイスなどを頂けたら、ありがたいです。



第4期隊員
上田倫未
うえだともみ
51歳

家電メーカーで22年間、商品づくりに携わったものの、天然素材を用いて、自らものづくりする経験は初体験でした。ものづくりが好きとはいえ、素材調達からデザイン、制作、展示に至るまですべてを一人でやるものづくりはとてもエキサイティングで大変でした。夏ごろに、竹を握る左手親指がバネ指となり、さらに冬にはナタを持つ右ひじがテニス肘・ゴルフ肘となり、注射と湿布のお世話になりました。1年の修行を経てようやく竹を割って竹ひごを採取し、小さなりんご手かごを編めるようになりました。今年度はりんご収穫に使えるサイズの大きな手かごをマスターし、複雑な編みにも挑戦します。また竹細工を買う人、観る人、作る人が集まる場づくりの検討も開始します。岩木地区に世界から人が集まり、賑わう場を夢見て、師匠の指導のもと、日々精進していきます。



第4期隊員
政本龍介
まさもとりゅうすけ
29歳

大分の竹工芸訓練センターにて2年間・真竹を学んできました。「真竹より篠竹 篠竹よりスズ竹 スズ竹より根曲竹」という言葉があり、竹の加工の難易度を示している説があります。大分で学んだ真竹・弘前で学んでいく根曲竹2つの技術を取り入れた作品作り。また竹細工を生業にしたいという思いで大分から弘前に移住しました。この1年間、根曲がり竹に触って感じているのが加工の難しさになります。竹が細く・曲がっており1本1本竹の硬さ・形状が違い、ひごを作るのに日々勉強だなと感じながら佐藤先生・三上先生のもと竹細工に向き合っています。2年目の目標は、津軽竹かごになかった作品を根曲がり竹で制作することです。また、1年目に行っていたワークショップを引き続き開催していきたいと思っています。

展示・販売会での津軽竹かご PR 活動

● 7～8月、東京・高円寺の手仕事道具店「cotogoto (コトゴト)」
(伊谷隊員)

● 7～8月、東京・谷中のイタリア青森雑貨店「cocchia (コッチャ)」にてポップアップ企画展・展示販売を行いました。(伊谷隊員)



cotogoto 店



room.4 展



地球をたがやし宇宙とかたる展

● 9月、弘前・清水盛にて、木工作家 & 津軽焼作家ユニット展示会

「room.4」ゲスト参加。(伊谷隊員)

● 11月青森市にて、岩木山麓工芸作家ユニット展示会「地球をたがやし宇宙とかたる」にて展示・販売をしました。

(伊谷隊員)

● 2月、青森市にて、モンベル & 青森県主催イベント「モンベルフレンドフェア」に参加し、展示販売会を行いました。(伊谷隊員)

● 2～3月、弘前・百沢のホテル「アソベの森いわき荘」にて、我が師匠お二人作品を販売。オーストラリアの方がお買い上げ。(伊谷・上田・政本隊員)



モンベルフレンドフェア



いわき荘での師匠の作品展示販売

ワークショップ・体験会での津軽竹かご PR 活動

● 5月、青森・浅虫での「浅虫温泉フェス」にて風車を作るワークショップを開催。子供でも短時間に楽しめる手作り体験。多くの層に愛宕の竹細工に触れて頂くために企画しました。ワークショップのレポートは今後も増やしていきたいです。(伊谷・上田・政本隊員)



岩木山と風車

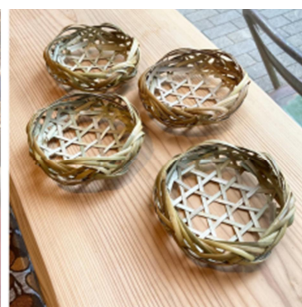


浅虫温泉フェス

● 8月、東京・谷中の雑貨店「cocchia (コッチャ)」での出張ワークショップ「小物入れをつくろう！」を行いました。岩木の風を感じて頂こうと、岩木山の根曲がり竹を東京に持ち込んで行いました！(伊谷隊員)



cocchia ワークショップ



● 8月、弘前・岩木にてワークショップ。四方の海が静かで、国が平和であることを祝う謡曲の言葉から発想された編みかご「四海波」のワークショップを開催。政本隊員の出身地の大分では神事にも用いられるかごです。

(上田・政本隊員)



● 10月、弘前市主催で弘前豊徳会・千年会が運営する関係人口増加を狙うイベント「弘前プレリサーチ」にて小物入れワークショップを実施。

(伊谷・上田・政本隊員)



● 12月、弘前・百沢にて、経験者向けワークショップ「豆かごをつくろう! 2 DAYS」を実施。難易度の高いフチつけも行いました。(伊谷隊員)



● 1月、弘前・相馬にて、四海波のワークショップを実施。上期に実施した同ワークショップの参加者から依頼を受け、2回目を開催。運営のコツを得たため8名から10名に増加。全員が制限時間内に完成。政本隊員が西日本で主力の真竹との違いを説明するなど、知識欲をも満たす内容でした。

(上田・政本隊員)



● 3月、弘前・百沢のホテル「アソベの森いわき荘」にて、四海波と六つ目の小物入れのワークショップを開催。上質な空間でのワークショップは心地よい体験でした。

(伊谷・上田隊員)



制作実演での津軽竹かご PR 活動

● 5月、弘前市民中央広場「さくら 200 万人通フェア」で実演会。アメリカ、オーストラリアなど海外観光客に関心を持って頂きました。（伊谷・上田・政本隊員）



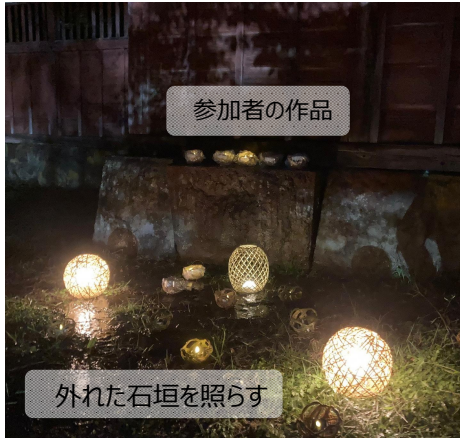
● 7月、弘前・百沢のホテル「アソベの森いわき荘」にて弘前市出身のバッグデザイナー赤峰清香さんと体験する「弘前、手しごとをめぐる旅」ツアー内での実演会。参加者は県外の人が多く、愛宕の竹細工の知恵に驚いていらっしゃいました！（伊谷隊員）

● 11月、弘前・岩木での岩木文化祭にて実演会。3人が横一列に並んでの迫力の実演会。子供たちは風車に興奮していました。（伊谷・上田・政本隊員）



● 2～3月、弘前・百沢のホテル「アソベの森いわき荘」にて実演会。オーストラリア、カナダからの観光客、県外、市外の観光客、日帰り温泉客の方々に実演会を楽しんでもらいました。アクションカメラを装着し、手元の作業もテレビモニターに映し出して、手のかかる細かな手しごとをお伝えしました。（伊谷・上田・政本隊員）

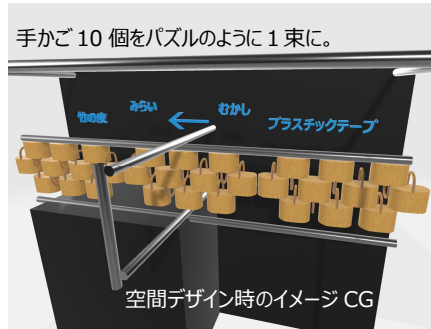
アートイベントでの津軽竹かご PR 活動



● 9月、弘前、国の重要文化財である高照神社にて竹細工の明かりで神社の損傷部を照らすライトアップを実施。同神社は建物老朽化や維持管理の担い手不足などの問題に直面しており、神社復活を応援する団体に損傷部ライトアップを提案しました。外れた石垣や折れた手すりを照らし、神社修復の関心を喚起する活動です。また、上述ワークショップに参加された方の作品も用いて市民協働型のイベントにしました。

(上田・政本隊員)

● 11月、弘前城 菊と紅葉まつりに出現した高さ約6m、幅約28mの玄武（北を鎮守する神獣）を表すフラワーアート。その甲羅内部に津軽竹かごを用いたアートオブジェでの空間演出を行いました。りんご手かごの最盛期を師匠からお聞きし、当時のかご運搬時の組み方（10個のかごを1束にまとめるくり方）を再現し、灯りとして甲羅内部を彩りました。りんご植樹150年を記念し、津軽の風景、人の営みを静かに語る演出となりました。（上田・政本隊員）



● 11月、菊と紅葉まつりでのイベント「竹灯り」を手がける熊本のChikaken（チカケン）社との協働。竹を編まずにネジや結束バンド、ドリルを用いて、大量の竹アートを手早く実現。今後の市場創造に役立つ、法人向けの事業ノウハウを入手できました。

(上田・政本隊員)



●11月、菊と紅葉まつりでの竹細工インスタレーションが好評で、観光振興をミッションとする岩瀬隊員が企画する音楽イベントに参加協力。りんご手かごと四海波かごを吊り照明に。政本隊員の球体や円筒作品をテーブル照明に。アーティストだけでなく、竹あかり自体を撮影する参加者も現れる賑わい。急遽テーブルを退けるほどの50名超の満員御礼。竹あかり照明を事業者向けに貸し出すビジネスのあり方を知ることができました。

(上田・政本隊員)



●2月、ヒロコ3階にて地域おこし協力隊の活動報告会。りんご公園に寄贈されたりんご手かごなど、約80個を組み立てて、大きなりんごオブジェを制作しました。市役所の職員の方々、他のミッションの地域おこし協力隊と一緒に制作し、協働を楽しみました。(伊谷・上田・政本隊員)



報道された私たちの活動

- 2025年6月19日 新聞 東奥日報 『津軽竹籠』作り 協力隊3人が技術学ぶ
- 2025年7月7日 FMラジオ放送 アップルウェーブ 「津軽いじん館 上田隊員の紹介」
- 2025年7月14日 FMラジオ放送 アップルウェーブ 「津軽いじん館 政本隊員の紹介」
- 2025年9月8日 新聞 東奥日報 「竹細工でライトアップ 高照神社でNEO 宵宮」
- 2025年12月8日 新聞 東奥日報 「竹細工の明かり ライブ幻想的」
- 2026年3月28日 テレビ NHK Eテレ 「タサン志麻の小さな旅 青森りんごのふるさとへ」

私たちの制作した作品紹介

●伊谷翼●

●りんご手かごやりんご手かごをアレンジした温泉湯かごです。温泉湯かごは手かごに足をつけたり、ものによっては持ち手が可動するように工夫しました。愛宕の手かごは作り手によって編み目の大きさや竹ひごの幅が違うので、毎回、「今回は三上先生風」「佐藤先生風に」「三上幸男さん風に」と作っております。その過程の中で自分の好みの編み方を見つけていければいいと思います！



●りんご手かごの六つ目編みで編まれたカトラリー入れやパンかごです。今年は六つ目で愛宕の竹細工の風合いを活かした、現代の生活に合うかごを作っていこうと思います。



●手かごに並ぶ愛宕の定番・椀かごの編み方にも今年から挑戦しています。写真左の椀かごの中には、あけびのコースター、根曲がり竹の蕎麦ざる（ともに試作品）です。出来栄えがあまり良くなかったので、少し隠れるように撮影しています。椀かごのような差し編みかごの理解を、より深めていきたいです。



●愛宕の名人の一人、三上昂生さんのかごを岩木地区の方にお借りし、少しでも昂生さんに近づきたくて、模倣制作しました。作りはじめると、昂生さんの凄さがよく分かります。写真奥に映る花かごは5回も編み直しましたが、いまだ納得できるものは作れず。たげ難しい…。昂生さんのかごには引き続きチャレンジしたいので、参考にさせていただけるかごがあればお声がけ頂けると、ありがたいです。

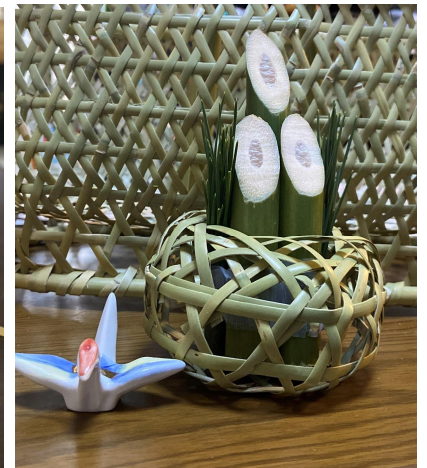


● 昨年は弘前のりんご手かごの風合いを感じられるような、新しい編み方のかごにも挑戦しました。手かごの特徴を取り入れながら、先生にアドバイスを頂き、少しずつ工夫して改善を重ねました。このタイプのかごは、昨年度の制作テーマでしたので、この写真以外にもたくさん制作しました。



● ワークショップ用の竹かごです。

難易度や所要時間が異なるので、様々な人に根曲がり竹の竹細工に触れて頂けると良いなと思っております。基本的には愛宕地区の竹細工で数多く作られる六つ目編みをベースとした竹かごや竹細工にしております。写真左端の手提げりんごかごは、かつてりんご屋のレジ袋のような存在だったとお聞きました。



●上田倫未●

●この1年間は人生初の竹細工となり、作品数は多くありませんが、ようやく小さな作品を作れるようになりました。

●最初に手がけた円形かご。基本修得です。写真右は四海波かご。前述の通り、高照神社を照らし、神社復興に尽力しました。



●小さなりんご手かご。持ち手は1本の竹を割らずに火で曲げます。何本も折りました。小物いれは迷わず作れるようになりました。



●もっと小さなりんご手かご。フチを水平にする大切さを知りました。長手方向に持ち手を付けたかご。可愛さを研究し始めました。



●りんご手かごのミニチュア。さくらんぼをりんごに見立てています。青森の文豪、太宰治の小説「桜桃」と絡めての観光商品です。



●今年度は、大きなりんご手かご、差し六つ目の椀かごの修得に挑戦です。伊谷隊員と一緒に教育機関での啓蒙もスタートです。



六つ目かご



りんご手かご



椀かご



花かご



差し六つ目バッグ



酒のかご



ござ目編みかご



コーヒードリッパー



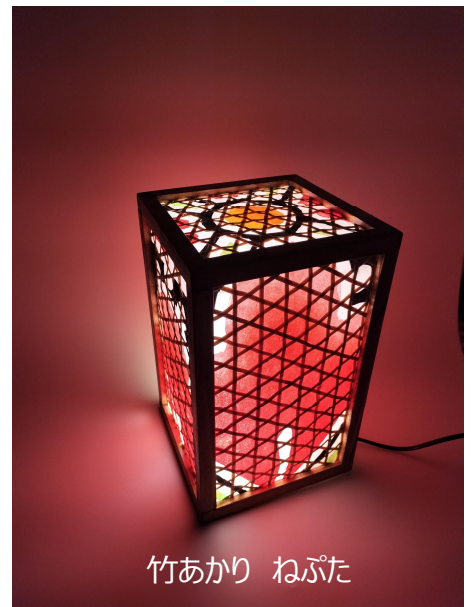
竹と革 長財布



竹あかり 筒



竹あかり 球



竹あかり ねぶた

●竹かごだけでなく、照明作品も制作しました。写真中央の作品は、国の重要文化財である高照神社の損傷箇所をライトアップしたいという考えから制作した作品になります。この球形状の竹あかりは「やたら編み」というランダムに編んで球を形づくりました。写真左端にある筒状の竹あかりは、津軽竹かごの基本である「六つ目編み」を基本としています。写真右端の竹あかり「ねぶた」は、ねぶた絵を使用したものです。岩木地区のねぶた祭りに参加した際、毎年ねぶた絵を廃棄するということを聞き、「もったいない。なにかの作品に再利用できないか」と思い、根曲がり竹とコラボしてみた作品です。

●「四海波」は、おめでたい席で謡われる謡曲にちなんだもの。四つ目編みを底にし、四辺を波の形に組み上げてまとめたかごになります。私の地元、大分県では毎年「竹の感謝祭」を行っています。神社にて大きな四海波を奉納し、自然の恵み・竹に感謝し、先達をしのび、参加者の懇親を目的としているものになります。その四海波を体験してもらうためワークショップを昨年度は開催しました。今年度も開催したいと考えているのでご興味がある方は参加して頂けると幸いです。

●根曲がり竹の1本1本の竹の硬さ・形状が異なっており、その竹を作りたいかごに適した幅や厚みに加工することに、この一年かなり苦戦しています。竹を割り剥ぎして竹ひごを作るのですが、竹1本から4本しかとれず、一つのかごを作るのに数十本から百本近くの竹を使います。竹ひごの幅や厚みに狂いが出ると、外観だけでなく「編み」にも影響してしまうので、いかに均一な竹ひごをとるかが、竹細工の肝になると考えています。制作精度、スピードを上げられるのか、現代生活にマッチした作品を作れるかなどを考えながら、竹細工に向き合い日々精進していきます。岩木総合支所の入口近くのガラスケースに作品を置いています。支所に寄った際にご覧頂けると幸いです。



四海波

編集後記

2025年4月の移住からスタートした弘前生活1年目は、京都の会社員時代と比べて、四季を体感する暮らしでした。出身の関西から6組8名の友人が来てくれ、夏のねぶた、秋のお山参詣、初冬のりんごを堪能しました。今月、リピーターが2組、桜を観に来ます。秋には元同僚3名が温泉を楽しみに訪れます。でも冬の来客がありません。ただ、雪燈籠づくりは想像よりも、肉体疲労を上回る楽しさがありました。ぜひ紹介したいです。もうひとつ感じたことがあります。愛宕地区に竹細工を求めて来訪する方が多いことです。弘前市内、青森市、福島県からの突然の訪問。新聞記事の写真に映る「竹細工の里」という看板を頼りに訪れたり、道行く人に何人も聞いてたどり着いたり。津軽竹かごは魅力的なのです。先日のNHK放送番組で津軽竹かごが紹介され、お問い合わせが増えていきます。岩木地区がもっと活気づくよう頑張ります。 上田倫末^{ともみ}